

第4回 京丹波町地域福祉計画策定委員会 会議概要

〔日 時〕 平成28年6月24日（金）午後1時25分～午後3時04分

〔場 所〕 京丹波町瑞穂保健福祉センター2階 集団指導室

〔出席者〕 寺尾豊爾町長

委員13名（波瀬孝澄、片山俊明、大西好美、竹内裕子、山上幸二、谷山和子、津田勝二、友金一文、梅原好範、野間之暢、中西和之、今海博文、藤田正則）
欠席 田中強、隅田光郎、野口博之、木上實、高橋弘、山崎正則【敬称略】
事務局5名（大西義弘、津田知美、上原美智子、岡本明美、中川早苗、並河直樹、豊嶋浩史）

1 開 会（事務局）

2 委嘱状の交付

○山上委員への委嘱状の交付（隅田委員及び野口委員には後日進達）

3 町長あいさつ（寺尾町長からあいさつ）

4 委員長あいさつ（波瀬委員長からあいさつ）

5 自己紹介（各委員及び事務局の自己紹介）

6 協議事項

（1）関係団体等懇談会についてのとりまとめ報告について

（2）アンケート調査結果及び関係団体等懇談会からみる課題について

○資料「関係団体懇談会についてのとりまとめ」と「アンケート調査結果及び関係団体等懇談会からみる課題」に基づき、コンサルから説明

委 員：ヒアリング実施者一覧（ボランティア）の15番の“グリーンハイツなごみ会”の活動内容についてであるが、美化活動・下校時の児童見守りは、なごみ会ではなく、なごみ会に入っているメンバーが所属する福寿会で行っているの、訂正をお願いしたい。

委 員：社協の登録内容に間違いがあったので、先月の社協のボランティア情報誌で訂正を行っています。
事務局：訂正させていただきます。

委 員：今回の資料の課題については、すぐ対応できるものも含まれている。こういうものは、すぐに対応していかないとヒアリングの意味がない。アンケートも実施するだけでなく、計画の施策に活かしてもらいたい。

事務局：すぐに対応できるようなものもありますので、そういうものについては、対応させていただきたいと考えています。

委 員：今回のヒアリングを行い、地域の課題についてとりまとめられているが、この課題については、どう対応するか意見を聴取できなかったこと、ここに上がっていないことはさみしいことである。また、この問題を地域としてクリアされていることもあると思う。そういうことについて、ヒアリングの時に充分説明されたのか。こういう問題に対して、どういう動きをするという積極的な意見は出なかったのか。こういう問題に取り組んで、解決されている

ところもあるということを考えながら次のステップに行きたい。

事務局：ヒアリング時には、課題を自由に出してくださいということで、その課題に対して、こういう解決策があるまことまでは説明していない。今後は、こういう課題に対しての解決に向けても取り組んでいきたい。

委員長：課題で、できるものについては、活かしてもらいたい。

(3) アンケート自由記載とりまとめ報告について

○資料「京丹波町地域福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書」に基づき、コンサルから説明

委員：素晴らしい調査ができたと思う。これを整理したら素晴らしい計画になるだろう。課題ばかりが出されているが、課題をどうするかが重要である。課題ばかりと埋もれさせるのではなく、計画に活かしてもらいたい。

委員：アンケートからの地域別の特徴については、和知地区では近所付き合いの程度が他の地区に比べ深いのに、住み続けたくない理由として、「近所付き合いが、わずらわしいから」の割合が高くなっている。このあたりなど、もっと深く掘り下げた分析をするのかどうか。

コンサル：今回上げられた課題は、それぞれの個別計画で解決すべき課題もあるかと思います。また、このアンケートからは、町全体の課題とともに、地域別の課題をとらえていますが、この計画では、町全体の対象者別の区別をしないで、共通的に対応できる基盤作りの計画としたいと考えています。そのため、地域別の課題については、できるだけとらえながら、まち全体の福祉として考えていきたい。

委員：提案であるが、いろんな話が出るが、社協だけでなくいろんな団体が一緒に“福祉まつり”としてやるのがいいのではないかな。そういうことで、交流ができてくるのではないかな。そういう工夫をすることが大事であると思う。

委員：今回の資料に掲載されているボランティア37団体は、NPOか、それともサークルか。

事務局：NPO登録はされていません。

(4) 次回の日程調整

事務局：次回委員会は、平成28年8月29日（月）午後1時30分から開催

7. 閉 会

— 閉 会 —